

様式1号
(総括票)

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	三菱電機株式会社中津川製作所 飯田工場							
代表者名	氏名	丸林 典矢	役職名	工場長				
主たる事務所の所在地	長野県飯田市松尾代田1213番地							
主たる事業の分類	大分類	E 製造業						
	中分類	2999 その他の電気機械器具製造業						
主たる事業の概要	太陽光発電パネル製造 換気扇及び小型モータ製造							
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者						
	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者						
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者						
原油換算エネルギー使用量	9,589	kl	その他ガス排出量合計	2,498	t-CO ₂	自動車の台数	3	台

2 計画期間及び報告対象年度

計画期間	26	年度	～	28	年度	報告対象年度	28	年度
------	----	----	---	----	----	--------	----	----

3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	受付窓口（飯田総務課）による。 担当部署：飯田総務課 閲覧可能時間：平日 8：30～17：00 連絡先：0265-23-5515
<input type="checkbox"/>	その他	

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

住環境製品の開発・製造・販売・サービスなど事業活動の展開にあたり、「人にやさしく地球にやさしく」を行動指針に、国際規格（ISO14001）に基づく環境マネジメントシステムを維持向上し、生物多様性への配慮に努めると共に環境負荷の低減・汚染の予防などを継続的な改善を図り、「地球環境の保全と向上」を進めます。

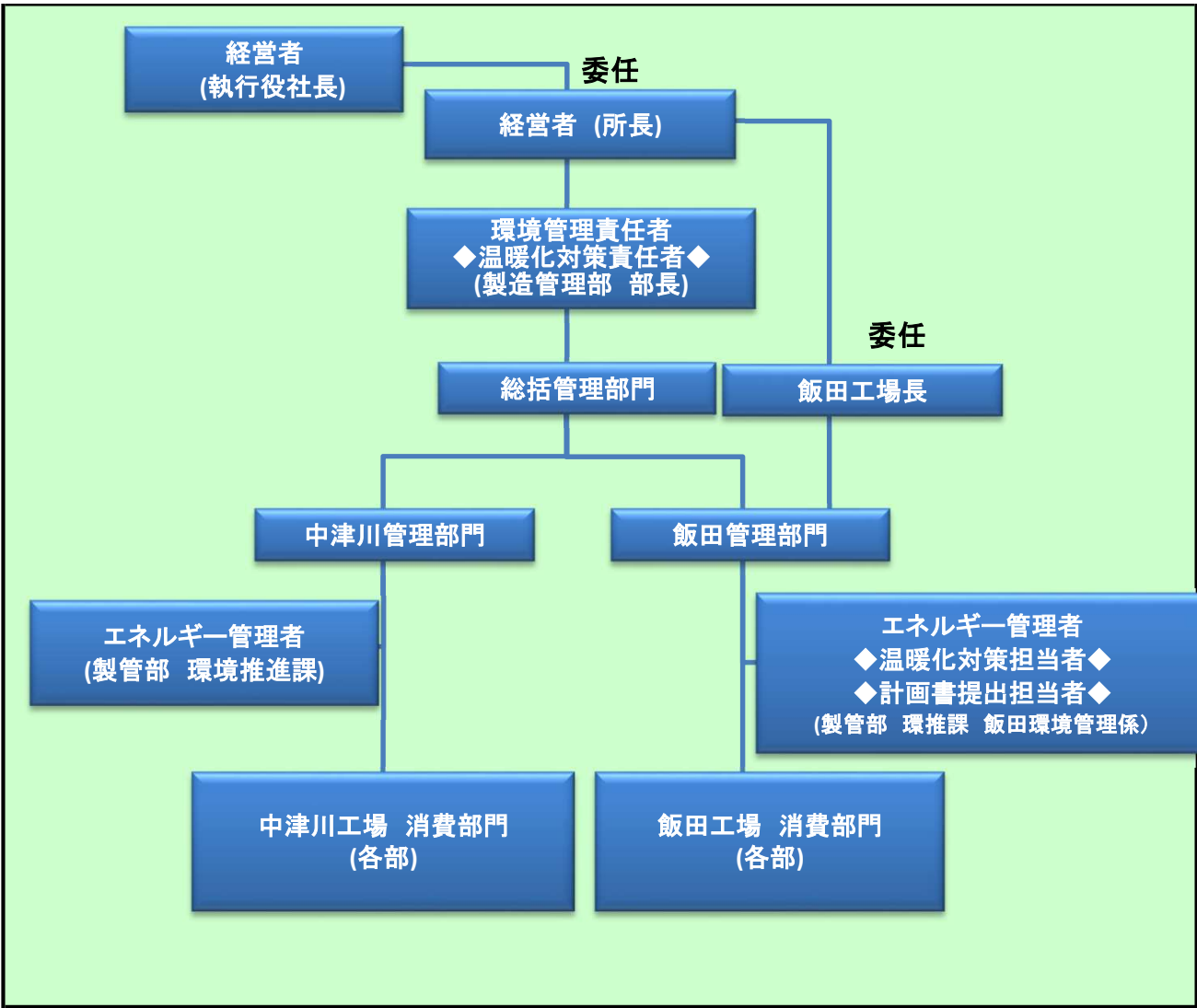
--中略--

3. 生産の効率化を進め、資源保護及び生物多様性に配慮した環境負荷の小さい生産システムを目指します。

(1) 効率的な生産方式の追及による省エネルギーとクリーンエネルギーへの代替化。

--後略--

5 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	25,719	t-CO ₂	太陽光発電能力	284	単位	MW	
25年度	調整後排出量	19,236	t-CO ₂	基準原単位	90.56	t-CO ₂ /	MW	
目標年度	目標排出量	24,947	t-CO ₂	目標原単位	87.84	t-CO ₂ /	MW	寄与度の合計から求めた目標削減率※
28年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	3.00	%		
目標設定に関する説明	設備更新時に高効率機器の設備導入を促進し、年平均1%の削減を達成する。							※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	23,044	t-CO ₂	太陽光発電能力	223.30	単位	MW	
	調整後排出量	22,885	t-CO ₂	原単位	103.20	t-CO ₂ /	MW	寄与度の合計から求めた目標削減率※
26年度	削減率	10.40	%	削減率	(13.96)	%		
排出量等の増減理由	排出量は、99%以上飯田工場で排出させる。飯田工場の生産(MW)減で排出量は削減できたが、原単位では、空調等の固定エネルギー使用が削減できず悪化した。							
第二年度	排出量	23,314	t-CO ₂	太陽光発電能力	267.75	単位	MW	
	調整後排出量	23,188	t-CO ₂	原単位	87.07	t-CO ₂ /	MW	寄与度の合計から求めた目標削減率※
27年度	削減率	9.35	%	削減率	3.85	%		
排出量等の増減理由	排出量及び原単位の削減率3%の目標は、達成できた。理由としては、ほぼフル生産ができたことと、ガスの使用をLPGからLNGに変換したこと及び地道な省エネ活動により達成された							
第三年度	排出量	19,761	t-CO ₂	太陽光発電能力	215.10	単位	MW	
	調整後排出量	19,619	t-CO ₂	原単位	91.87	t-CO ₂ /	MW	寄与度の合計から求めた目標削減率※
28年度	削減率	23.16	%	削減率	(1.45)	%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由	生産減により排出量削減達成。 生産減が大きく固定費分(空調等)が上昇したため、原単位は悪化した。							

様式1号
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	5,336	t-CO ₂	太陽光発電能力	284	単位	MW	
25年度	調整後排出量	5,336	t-CO ₂	基準原単位	18.79	t-CO ₂ /	MW	
目標年度	目標排出量	5,176	t-CO ₂	目標原単位	18.23	t-CO ₂ /	MW	寄与度の合計から求めた目標削減率※
28年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	3.00	%		
目標設定に関する説明	使用量の適正化を検討し、年平均1%の削減を達成する。							※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	3,737	t-CO ₂	太陽光発電能力	223.30	単位	MW	
	調整後排出量	3,737	t-CO ₂	原単位	16.74	t-CO ₂ /	MW	寄与度の合計から求めた目標削減率※
26年度	削減率	29.96	%	削減率	10.91	%		
排出量等の増減理由	飯田工場の生産減により排出量全体は減ったが、CF4除害装置未設置場所の設備稼働があまり減少しなかった為、原単位削減率はあまり減少しなかった。							
第二年度	排出量	3,040	t-CO ₂	太陽光発電能力	267.75	単位	MW	
	調整後排出量		t-CO ₂	原単位	11.35	t-CO ₂ /	MW	寄与度の合計から求めた目標削減率※
27年度	削減率	43.02	%	削減率	39.59	%		
排出量等の増減理由	CF4の使用量削減活動により排出量及び原単位が削減した。							
第三年度	排出量	2,498	t-CO ₂	太陽光発電能力	215.10	単位	MW	
	調整後排出量		t-CO ₂	原単位	11.61	t-CO ₂ /	MW	寄与度の合計から求めた目標削減率※
28年度	削減率	53.18	%	削減率	38.21	%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由	生産量が減少したため排出量も低下した。							

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標等の状況

基準年度	基準排出量	13	t-CO ₂			
25年度						
目標年度	目標排出量	非該当	t-CO ₂	削減率		%
28年度						
目標設定に関する説明	非該当					
第一年度	排出量	10	t-CO ₂	削減率	23.07	%
26年度						
排出量等の増減理由	非該当					
第二年度	排出量	8	t-CO ₂	削減率	38.46	%
27年度						
排出量等の増減理由	非該当					
第三年度	排出量	6	t-CO ₂	削減率	53.84	%
28年度						
目標の達成状況及び排出量の増減理由	非該当					

7 重点対策の実施状況

段階	連番	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I、II	1	燃料使用量等の定期的な把握						
	2	エコドライブの励行			非該当			
III、IV	—	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	対策内容	計画		実績	
			実施 予定年 度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	320103 燃料の管理(LPG→LNG)	27-28	355	27-28	355
2	エネ起	330204 冷凍機の効率管理	27	70	-	-
3	エネ起	360751 コンプレッサー運転台数の自動制御装置導入	28	10	28	10
4	エネ起	380701 照明設備の運用管理	26-28	15	27-28	10
5	エネ起	380753 LEDの導入	26-28	15	26-28	15
6						
7						
8						
9						
10						

9 自然エネルギー源利用設備等の導入状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度
太陽光	kW	1,087	50	1087	1087	1087

10 クレジット等に関する取組状況

クレジットの種類	単位	基準年度	計画期間	第一年度	第二年度	第三年度
グリーンエネルギー証書 (電気)	tCO ₂					
グリーンエネルギー証書 (熱)	tCO ₂					
J-クレジット制度により 創出されたクレジット	tCO ₂					
県が認証したクレジット	tCO ₂					
電気の利用に伴うもの	tCO ₂	6,483		159	126	142
低炭素電力の利用	tCO ₂					

様式1号
(総括票)

1.1 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出状況 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上	1	25,475	1	23,012	1	23,284	1	19,727
1,500k1以上 3,000k1未満								
1,500k1未満	2	244	2	32	2	30	2	34
合計	3	25,719	3	23,044	3	23,314	3	19,761

1.2 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出状況 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂				
CH ₄				
N ₂ O				
HFC				
PFC	5336	3737	3040	2498
SF ₆				
合計	5336	3737	3040	2498

1.3 次世代車使用台数及び導入計画 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車				
電気自動車				
燃料電池自動車				
クリーンディーゼル自動車				
その他				
合計				
自動車総数	3	3	3	3
次世代車導入割合				

様式1号
(総括票)

1.4 中小企業支援

区分	内容
中小企業への省エネ診断	範囲地区の官民31事業所で行く「地域ぐるみ環境ISO研究会」に参加し、2010年より「いいこそいいだPJ」を発足し、参加企業の省エネ活動の助成を実施している。
その他	

1.5 交通対策

区分	実施内容
ノーマイカー通勤	飯田市の一斉行動等の取組に協賛し、ノーマイカーの推進。
公共交通機関の利用促進	出張時は公共機関のを活用しCO2排出を抑制。 自社の事業所間の移動に定期バスを運行し、効率の良い移動を実施。
来客者の交通対策	公共機関活用の促進。 駐車場でのアイドリングストップの依頼。
物流の合理化	特になし。

1.6 環境マネジメントシステム導入状況

番号	名称	導入年
1	JACO ISO14001	1998年
2		
3		

1.7 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度実績	環境に配慮した製品の導入。 地域ぐるみ環境ISO委員会に所属し、飯田地域への環境貢献へ協力。 飯田市の「飯田地区省エネ一斉行動」に協賛し、各種省エネ活動に協力。
第一年度実績	地域ぐるみ環境ISO委員会に所属し、飯田地域への環境貢献へ協力。 飯田市の「飯田地区省エネ一斉行動」に協賛し、各種省エネ活動に協力。
第二年度実績	地域ぐるみ環境ISO委員会に所属し、飯田地域への環境貢献へ協力。 飯田市の「飯田地区省エネ一斉行動」に協賛し、各種省エネ活動(他企業省エネ診断他)に協力。
第三年度実績	地域ぐるみ環境ISO委員会に所属し、飯田地域への環境貢献へ協力。 飯田市の「飯田地区省エネ一斉行動」に協賛し、各種省エネ活動に協力。

1.8 自由記載欄

区分	内容	削減量(tCO ₂)
基準年度以前の取組み	エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス(PFC)の除去装置4台導入。(2009年度)	34,112
その他		